



道徳教科書における出版社別教材配当の特徴

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2021-10-14 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 星, 裕 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.32150/00007016

道徳教科書における出版社別教材配当の特徴

星 裕

北海道教育大学釧路校

Characteristics of Dividends for Teaching Materials by Publishers in Moral Textbooks

HOSHI Yutaka

Kushiro Campus, Hokkaido University of Education

概 要

本研究の目的は、道徳教科書の各出版社が内容項目に配当した教材数を比較し、教材配当の特徴と課題を明らかにすることである。

本研究の結果から、教科書における出版社別教材配当の特徴を、以下の2点に整理できた。

1点目は、配当方法に関する特徴である。配当方法は2つに整理することができた。1つ目は、特定の内容項目と対応した教材を多く配当する方法である。2つ目は、どの内容項目にもほぼ同数の教材を配当する方法である。

2点目は、各出版社が多くの教材を配当した内容項目にみられた特徴である。多くの教材が配当された内容項目は、2つに整理できた。1つ目は、学習指導要領に示された指導の重点と合致した内容項目である。2つ目は、出版社が独自に多くの教材を配当した内容項目である。

1. 問題と目的

平成30（2018）年度に、「特別の教科 道徳」が全面実施された。これによって、昭和33（1958）年に特設された道徳の時間が約60年を経て、「特別の教科」とされることになった。教科化に伴い、改善の方向性が示され、その中の1つに、道徳の授業において主たる教材として教科用図書（以下、「教科書」と記す）を用いることがあった。教科書の導入にあたっては、「民間発行者の創意工夫を生かすとともに、バランスのとれた多様な教科書を認めるといった基本的な観点」から、検定を経

た教科書を選択して用いる方法がとられた（中央教育審議会，2014）。

今次の改正に求められたものは、「第一に道徳授業を確実に行う量的確保であり、第二に道徳授業の質的改善」であった（赤堀，2018）。これは、主として道徳の授業改善に向けた方針を示したものであるが、道徳の授業と教材との関わりについては、「教育課程の実施としての授業である以上、指導と学習の媒介としての教材が果たす役割は大きい」（赤堀，2018）、「道徳授業では、各教科に比べて道徳資料（教材）に依存する割合が高い」（田沼，2014）等の指摘もみられ、教材が道徳の

授業に与える影響は大きいと考えられる。

教科化に伴い導入された教科書では、読み物教材が中心的な教材として取り上げられた。読み物教材は、これまでに数多くの授業の中で活用されており、読み物教材の活用は道徳の授業において有効な指導法と考えられている（赤堀，2018）。これらのことから、「量的確保」と「質的改善」という両面から道徳の授業改善が求められており、その中で教材、特に読み物教材が果たす役割は大きなものであるといえる。

ところで、学校教育法第34条第1項には、教科書に使用義務があることが示されている。この規定は、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校にも準用される。一方で、道徳の教材については、「教科書のみを使用するのではなく、各地域に根ざした郷土資料など、多様な教材を併せて活用することが重要」とされており（中央教育審議会，2014）、多様な教材の活用が求められた。

しかしながら、道徳の年間指導計画作成上の留意点として、「教材を安易に変更することは避けねばならない」（文部科学省，2018a）ことが示されたことから、教材の変更が容易ではないとの指摘もみられた（北田，2017；山崎，2016）。

また、教科書を導入することに対する現場教員等の意見として、否定的な立場からは教材選択の自由が制限されることへの懸念が挙げられ、肯定的な立場からは教科書を選択しなくていいとの意見が挙げられていた（越中・目久田，2016）。このことは、否定的な意見は、教科書が導入されることで教材を変更することが難しくなることを現場の教員等自身が危惧していることを示唆しており、肯定的な意見は、一見すると、教科書の活用が進むというよい面からとらえられそうではあるが、多様な教材の開発・活用に向けた教員の意識が無くなる懸念があることを示唆している。

また、教科書が導入される前に道徳の時間に使用された教材としては、文部科学省発行の『私たちの道徳』と民間の教材会社で開発・刊行した副読本が多く用いられていたことも報告されていた

（文部科学省，2014）。

これらのことから、主たる教材として教科書が導入されたことで、授業の多くの場面では、教科書が用いられる可能性が高いと考えられる。多様な教材の開発、活用も行われていくとは考えられるが、もともと『私たちの道徳』や副読本が多く活用されていたことに加え、現場の教員の間に、教材の変更に難しさが伴うとの意識や教材の開発・活用への意識が低くなる懸念などがみられた。そのため、教科書の導入により、小学校6年間、中学校3年間の合計9年間にわたり、道徳の授業では、教科書に掲載された教材が多く用いられる可能性が高いと考えられる。

一方、道徳教育の推進にあたって、学校は児童・生徒の実態等を踏まえて、指導の重点を設定することを求められた（文部科学省，2018b；文部科学省，2018c）。道徳の授業における重点的な指導の工夫としては、「その内容項目に関する指導について年間の授業時数を多くとること」（文部科学省，2018a；文部科学省，2018d）が示されていた。そのため、教科書において内容項目と対応した教材をどのように配当するかは、重点的な指導と密接な関係にあり、教科書出版社（以下、「出版社」と記す）が、どのように内容項目に教材を配当したのか、その特徴を理解することは、学校が指導の重点を生かした指導を進める上で欠かすことができないものである。

そこで本研究は、道徳教科書における出版社別教材配当の特徴を検討し、学校が道徳教育において重点的な指導を行う際に考えられる課題を明らかにすることを目的とした。

2. 方法

本研究で対象とした道徳の教科書は、小学校が令和2年度版、中学校が平成31年度版であった。令和2年度版小学校教科書、平成31年度版中学校教科書のいずれも、8社から発行された。

本研究では、各出版社が内容項目に配当した教材の数を研究の対象とした。これは、内容項目に

配当した教材数を出版社別に比較することで、それぞれの教科書が教材の配当にどのような特徴をもつのか明らかにすることができると考えたためである。

研究の方法は、以下の手順で行った。まず、出版社別に比較できるように教材数を整理した。整理した手順は次の通りである。最初に、内容項目に対応した教材数を出版社別に学年ごとに集計した。

次に、集計した教材数を内容項目ごとに全学年分の教材数を合計した。これによって、内容項目に配当された教材の数から、出版社別に教材配当の特徴を明らかにすることができると考えた。その際、小学校と中学校は一部出版社が異なったこと、内容項目に付記された端的に表す言葉に違いがみられたことの2点から別に整理した。また、小学校は、学年段階によって内容項目の番号が異なったことから、高学年に揃えた(表1)。

最後に合計した教材の数を、該当の内容項目が含まれる学年の数で割り、学年ごとの平均の数を求めた。これは、小学校では、低学年は19、中学年は20、高学年は22と内容項目の数が異なっており、内容項目の数の違いが教材数の合計に影響を与えると考えたためである。そのため、1学年あたりの教材数の平均を出すことで教材配当にみられた特徴を探ることとした。これらによって、内容項目と対応した教材数を校種別出版社別に全学年分合計し、1学年当たりの平均を求めた。

次に、教材数を整理した結果を、校種別に2つの方法で分析した。1つ目は、教材数を整理した結果から、それぞれの出版社が教材の配当をどのような方法で行ったのかを明らかにした。これは、内容項目と対応した教材数の平均を対象とし、それぞれの内容項目にほぼ同数の教材を配当したのか、それとも、特定の内容項目に多くの教材を配当したのかを検討した。これによって、それぞれの教科書にみられた教材の配当方法の特徴を明らかにした。

2つ目は、それぞれの出版社がどの内容項目への教材配当数を多くしたのかを検討した。全ての

内容項目への教材の配当数を等しくすることはできないため、内容項目ごとに配当された教材数にはある程度の偏りはできることになる。そこで、どの内容項目に多くの教材を配当したのかを検討した。方法は、1学年あたりに配当した教材数の平均が高い内容項目のうち、上位3つを対象とし、それぞれの教科書の上位3つと全教科書の合計の上位3つの重なりを比較した。これによって、どの内容項目への教材配当数を多くしたのかを明らかにし、全体の上位3位との比較から、出版社別の特徴を明らかにした。

以上の手続きによって、教材の配当方法と多くの教材を配当した内容項目を出版社別に分析し、道徳教科書の教材配当の特徴を検討した。その結果から、学校が道徳教育において重点的な指導を行う際に考えられる課題を考察した。

3. 結果と考察

(1) 小学校の出版社別にみられた特徴

内容項目と対応した教材数を小学校の出版社別に全学年分合計し、1学年あたりの平均を求めた結果が表2である。

まず、教材の配当方法について検討した。廣済堂あかつきは、全学年で3つの教材を配当した内容項目が3つと、1つの教材を配当した内容項目が11あり、それ以外に学年によって2前後の教材を配当した内容項目が8であった。どの内容項目に多くの教材を配当したかが明確であった。東京書籍、教育出版、日本文教出版、光文書院、学研教育みらいも上位3～5項目が明確であり、特定の内容項目に多くの教材を配当する傾向が確認できた。

一方、学校図書は、全ての内容項目に1～2の教材を配当しており、2つの教材を配当した内容項目が10、1つのみ配当した内容項目が2、学年によって配当数が異なった内容項目が10であった。どの内容項目も配当数には大きな差がなく、ほぼ同数の教材を配当した。光村図書もD「生命の尊さ」を除くと1～2を配当しており、同様の

傾向が確認できた。

次に、各出版社が多くの教材を配当した内容項目を検討した。方法としては、1学年あたりに配当した教材数の平均が高い内容項目のうち上位3つを対象とし、全教科書の合計の平均が高い内容項目上位3つと比較した。全教科書の合計では、A「善悪の判断、自律、自由と責任」、B「親切、思いやり」、D「生命の尊さ」が上位3つの内容項目であった。これらのうち、D「生命の尊さ」については全8社が、B「親切、思いやり」は6社、A「善悪の判断、自律、自由と責任」は5社

が上位3つに含めていた。

この上位3つの内容項目全てが該当したのは、学校図書、光村図書、日本文教出版、学研教育みらい、廣済堂あかつきの5社であった。ただし、このうち学校図書、光村図書、日本文教出版については、上位3つの内容項目以外にも同じ教材数を配当した内容項目が複数みられた。上位3つのうち2つが該当したのは東京書籍、1つが該当したのは教育出版、光文書院であった。これらのうち、1つしか共通する内容項目が確認できなかった教育出版は、C「伝統と文化の尊重、国や郷土

表1 各校種の内容項目の項目番号と付記された端的に表す言葉

小学校（高学年に揃えた）		中学校	
項目番号	端的に表す言葉	項目番号	端的に表す言葉
A(1)	善悪の判断、自律、自由と責任	A(1)	自主、自律、自由と責任
A(2)	正直、誠実	A(2)	節度、節制
A(3)	節度、節制	A(3)	向上心、個性の伸長
A(4)	個性の伸長	A(4)	希望と勇気、克己と強い意志
A(5)	希望と勇気、努力と強い意志	A(5)	真理の探究、創造
A(6)	真理の探究	B(6)	思いやり、感謝
B(7)	親切、思いやり	B(7)	礼儀
B(8)	感謝	B(8)	友情、信頼
B(9)	礼儀	B(9)	相互理解、寛容
B(10)	友情、信頼	C(10)	遵法精神、公德心
B(11)	相互理解、寛容	C(11)	公正、公平、社会正義
C(12)	規則の尊重	C(12)	社会参画、公共の精神
C(13)	公正、公平、社会正義	C(13)	勤労
C(14)	勤労、公共の精神	C(14)	家族愛、家庭生活の充実
C(15)	家族愛、家庭生活の充実	C(15)	よりよい学校生活、集団生活の充実
C(16)	よりよい学校生活、集団生活の充実	C(16)	郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度
C(17)	伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度	C(17)	我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度
C(18)	国際理解、国際親善	C(18)	国際理解、国際貢献
D(19)	生命の尊さ	D(19)	生命の尊さ
D(20)	自然愛護	D(20)	自然愛護
D(21)	感動、畏敬の念	D(21)	感動、畏敬の念
D(22)	よりよく生きる喜び	D(22)	よりよく生きる喜び

表2 出版社別内容項目と対応した教材の配当数（小学校）

内容項目	東京書籍		学校図書		教育出版		光村図書		日本文教出版		光文書院		学研みらい		廣済堂あかつき		合計	
	教材数	1学年平均	教材数	1学年平均	教材数	1学年平均	教材数	1学年平均	教材数	1学年平均	教材数	1学年平均	教材数	1学年平均	教材数	1学年平均	教材数	1学年平均
A(1)	10	1.67	12	2.00	10	1.67	12	2.00	16	2.67	11	1.83	18	3.00	18	3.00	107	17.83
A(2)	10	1.67	10	1.67	6	1.00	10	1.67	7	1.17	8	1.33	7	1.17	12	2.00	70	11.67
A(3)	14	2.33	12	2.00	15	2.50	11	1.83	17	2.83	13	2.17	10	1.67	14	2.33	106	17.67
A(4)	6	1.00	10	1.67	8	1.33	10	1.67	7	1.17	7	1.17	10	1.67	6	1.00	64	10.67
A(5)	12	2.00	12	2.00	16	2.67	10	1.67	8	1.33	8	1.33	12	2.00	12	2.00	90	15.00
A(6)	2	1.00	2	1.00	2	1.00	2	1.00	2	1.00	3	1.50	2	1.00	2	1.00	17	8.50
A合計	54	9.67	58	10.33	57	10.17	55	9.83	57	10.17	50	9.33	59	10.50	64	11.33	454	81.33
B(7)	16	2.67	12	2.00	12	2.00	12	2.00	16	2.67	11	1.83	18	3.00	18	3.00	115	19.17
B(8)	7	1.17	8	1.33	8	1.33	12	2.00	6	1.00	8	1.33	6	1.00	6	1.00	61	10.17
B(9)	8	1.33	8	1.33	9	1.50	8	1.33	9	1.50	9	1.50	8	1.33	10	1.67	69	11.50
B(10)	12	2.00	10	1.67	12	2.00	12	2.00	11	1.83	15	2.50	14	2.33	12	2.00	98	16.33
B(11)	4	1.00	8	2.00	4	1.00	8	2.00	7	1.75	8	2.00	6	1.50	4	1.00	49	12.25
B合計	47	8.17	46	8.33	45	7.83	52	9.33	49	8.75	51	9.17	52	9.17	50	8.67	392	69.42
C(12)	12	2.00	12	2.00	9	1.50	12	2.00	16	2.67	15	2.50	10	1.67	16	2.67	102	17.00
C(13)	6	1.00	12	2.00	8	1.33	12	2.00	11	1.83	9	1.50	10	1.67	6	1.00	74	12.33
C(14)	10	1.67	8	1.33	8	1.33	9	1.50	9	1.50	11	1.83	6	1.00	6	1.00	67	11.17
C(15)	9	1.50	9	1.50	9	1.50	10	1.67	6	1.00	9	1.50	6	1.00	12	2.00	70	11.67
C(16)	10	1.67	12	2.00	8	1.33	12	2.00	7	1.17	9	1.50	6	1.00	6	1.00	70	11.67
C(17)	10	1.67	8	1.33	19	3.17	7	1.17	12	2.00	12	2.00	10	1.67	11	1.83	89	14.83
C(18)	8	1.33	8	1.33	8	1.33	7	1.17	8	1.33	7	1.17	10	1.67	6	1.00	62	10.33
C合計	65	10.83	69	11.50	69	11.50	69	11.50	69	11.50	72	12.00	58	9.67	63	10.50	534	89.00
D(19)	18	3.00	12	2.00	15	2.50	18	3.00	16	2.67	18	3.00	18	3.00	18	3.00	133	22.17
D(20)	12	2.00	12	2.00	11	1.83	6	1.00	7	1.17	8	1.33	11	1.83	6	1.00	73	12.17
D(21)	11	1.83	10	1.67	8	1.33	6	1.00	6	1.00	7	1.17	7	1.17	6	1.00	61	10.17
D(22)	2	1.00	2	1.00	4	2.00	3	1.50	5	2.50	3	1.50	4	2.00	2	1.00	25	12.50
D合計	43	7.83	36	6.67	38	7.67	33	6.50	34	7.33	36	7.00	40	8.00	32	6.00	292	57.00
平均	9.50	1.66	9.50	1.67	9.50	1.69	9.50	1.69	9.50	1.72	9.50	1.70	9.50	1.70	9.50	1.66		
SD	3.94	0.54	2.89	0.34	4.01	0.57	3.43	0.46	4.19	0.65	3.53	0.48	4.31	0.63	4.99	0.74	26.97	
合計	209		209		209		209		209		209		209		209		1672	

を愛する態度」, A「希望と勇気, 努力と強い意志」に多くの教材を配当していた。また, 光文書院についても B「友情, 信頼」, C「公正, 公平, 社会正義」に多くの教材を配当しており, これらの2社は他社とは違う傾向がみられた。

これらのことから, 教材配当の特徴に関して, 以下の2点が示された。

1点目は, 配当方法が2つに分けられ, 出版社による違いがみられたことである。1つ目は, 特定の内容項目に多くの教材を配当する方法, 2つ目は, どの内容項目にもほぼ同数を配当する方法であった。

前者に該当する出版社は, 東京書籍, 教育出版, 日本文教出版, 光文書院, 学研教育みらい, 廣済堂あかつきであった。これらの出版社の教科書は, 内容項目への教材配当に軽重をつけていたことが確認できた。

後者に該当する出版社は, 学校図書と光村図書であった。これらの出版社の教科書は, どの内容項目にもほぼ同数の教材が配当されていた。

2点目は, それぞれの出版社が多くの教材を配当した内容項目には, 一定の共通性が確認できたことである。これは, 全体の上位3項目が, 多くの出版社の上位3項目と合致していたことに加え, 教科書の上位3項目に1つも合致しない出版社はなかったためである。特に5つの出版社については, この上位3つが全て合致した。

全体の上位3項目として挙げられていたのは, A「善悪の判断, 自律, 自由と責任」, B「親切, 思いやり」, D「生命の尊さ」であった。これら3つは, 各学年を通じて重点化を図る内容と合致していた。重点化を図る指導内容に関して, 『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 総則編』は, 「各学年を通じて, 自立心や自律性, 生命を尊重する心や他者を思いやる心を育てることに留意すること(文部科学省, 2018b)」と示した。

この内容と上位3つの内容項目を比較してみると, A「善悪の判断, 自律, 自由と責任」は「自立心や自律性」, B「親切, 思いやり」は「他者を思いやる心」, D「生命の尊さ」は「生命を尊

重する心」と合致した。それゆえ, 各出版社は, 各学年を通じて重点化を図ることが求められた内容項目に多くの教材を配当したといえる。

一方で, 他社とは異なる内容項目に多くの教材を配当し, 差異化を図った出版社も確認できた。例えば, 教育出版はC「伝統と文化の尊重, 国や郷土を愛する態度」, A「希望と勇気, 努力と強い意志」に多くの教材を配当した。これらは他社の上位3項目にはほとんどみられず, 特徴的な配当であった。

(2) 中学校の出版社別にみられた特徴

内容項目と対応した教材数を中学校の出版社別に全学年分合計し, 1学年あたりの平均を求めた結果が表3である。

まず, 教材の配当方法について検討した。廣済堂あかつきは, 教材の配当数が1~3の範囲であった。また, 3つの方法で教材を配当しており, 3つの教材を配当した内容項目が4つ, 2つの教材を配当した内容項目が5つ, 1つの教材を配当した内容項目が13であった。どの内容項目に多くの教材を配当したかが明確であった。教育出版, 日本文教出版, 学研教育みらい, 日本教科書も上位3~6項目が明確であり, これらは, 特定の内容項目に多くの教材を配当したと考えられる。

一方, 学校図書は, 教材の配当数が1~2の範囲であった。教材は2つの方法で配当しており, 2つの教材を配当した内容項目が13, 1つの教材を配当した内容項目が9であった。東京書籍, 光村図書の2社も同様の傾向がみられた。この2社はいずれもD「生命の尊さ」に多くの教材を配当したものの(光村図書はB「思いやり, 感謝」を含む), その他は, 1学年当たり1~2教材を配当した。この3社は, どの内容項目も配当数に大きな差がなく, ほぼ同数の教材を配当した。

次に, 各出版社が多くの教材を配当した内容項目を検討した。全教科書の合計では, B「友情, 信頼」, D「生命の尊さ」, D「よりよく生きる喜び」が上位3つであり, 多くの教材が配当された。

この3つの内容項目は, 全体的にどの出版社も

表3 出版社別内容項目と対応した教材の配当数（中学校）

内容項目	東京書籍		学校図書		教育出版		光村図書		日本文教出版		光文書院		学研みらい		廣済堂あかつき		合計	
	教材数	1学年平均	教材数	1学年平均	教材数	1学年平均	教材数	1学年平均	教材数	1学年平均	教材数	1学年平均	教材数	1学年平均	教材数	1学年平均	教材数	1学年平均
A(1)	6	2.00	6	2.00	4	1.33	6	2.00	6	2.00	6	2.00	9	3.00	5	1.67	48	2.00
A(2)	6	2.00	6	2.00	5	1.67	5	1.67	4	1.33	6	2.00	3	1.00	3	1.00	38	1.58
A(3)	3	1.00	3	1.00	3	1.00	5	1.67	3	1.00	3	1.00	3	1.00	5	1.67	28	1.17
A(4)	3	1.00	3	1.00	5	1.67	6	2.00	5	1.67	4	1.33	6	2.00	4	1.33	36	1.50
A(5)	3	1.00	3	1.00	3	1.00	4	1.33	3	1.00	5	1.67	3	1.00	3	1.00	27	1.13
A(6)	21	7.00	21	7.00	20	6.67	26	8.67	21	7.00	24	8.00	24	8.00	20	6.67	177	7.38
A合計	6	2.00	6	2.00	7	2.33	7	2.33	3	1.00	7	2.33	9	3.00	5	1.67	50	2.08
B(7)	3	1.00	3	1.00	3	1.00	3	1.00	3	1.00	3	1.00	3	1.00	3	1.00	24	1.00
B(8)	6	2.00	6	2.00	6	2.00	6	2.00	8	2.67	7	2.33	6	2.00	9	3.00	54	2.25
B(9)	6	2.00	3	1.00	4	1.33	6	2.00	4	1.33	5	1.67	3	1.00	6	2.00	37	1.54
B(10)	21	7.00	18	6.00	20	6.67	22	7.33	18	6.00	22	7.33	21	7.00	23	7.67	165	6.88
B(11)	6	2.00	6	2.00	5	1.67	6	2.00	6	2.00	6	2.00	6	2.00	7	2.33	48	2.00
B合計	6	2.00	6	2.00	5	1.67	6	2.00	6	2.00	4	1.33	6	2.00	7	2.33	46	1.92
C(12)	6	2.00	6	2.00	7	2.33	5	1.67	7	2.33	4	1.33	3	1.00	7	2.33	45	1.88
C(13)	6	2.00	6	2.00	3	1.00	3	1.00	5	1.67	3	1.00	3	1.00	4	1.33	33	1.38
C(14)	3	1.00	3	1.00	3	1.00	3	1.00	3	1.00	3	1.00	6	2.00	5	1.67	29	1.21
C(15)	3	1.00	3	1.00	3	1.00	4	1.33	3	1.00	5	1.67	3	1.00	3	1.00	27	1.13
C(16)	4	1.33	6	2.00	8	2.67	3	1.00	4	1.33	3	1.00	3	1.00	5	1.67	36	1.50
C(17)	4	1.33	6	2.00	4	1.33	3	1.00	5	1.67	3	1.00	3	1.00	5	1.67	33	1.38
C(18)	4	1.33	6	2.00	6	2.00	3	1.00	6	2.00	6	2.00	3	1.00	4	1.33	38	1.58
C合計	42	14.00	48	16.00	44	14.67	36	12.00	45	15.00	37	12.33	36	12.00	47	15.67	335	13.96
D(19)	9	3.00	6	2.00	8	2.67	9	3.00	9	3.00	9	3.00	9	3.00	7	2.33	66	2.75
D(20)	3	1.00	3	1.00	4	1.33	3	1.00	3	1.00	4	1.33	3	1.00	3	1.00	26	1.08
D(21)	3	1.00	3	1.00	4	1.33	3	1.00	3	1.00	3	1.00	3	1.00	3	1.00	25	1.04
D(22)	6	2.00	6	2.00	5	1.67	6	2.00	6	2.00	6	2.00	9	3.00	8	2.67	52	2.17
D合計	21	7.00	18	6.00	21	7.00	21	7.00	21	7.00	22	7.33	24	8.00	21	7.00	169	5.28
平均	4.77	1.59	4.77	1.59	4.77	1.59	4.77	1.59	4.77	1.59	4.77	1.59	4.77	1.59	5.05	1.68	38.45	1.60
SD	1.65	0.55	1.47	0.49	1.59	0.53	1.65	0.55	1.76	0.59	1.65	0.55	2.33	0.78	1.77	0.59	11.04	0.46
合計	105	35	105	35	105	35	105	35	105	35	105	35	105	35	111	37	846	35.25

多くの教材を配当しており、D「生命の尊さ」は、全8社が上位3位以内に含め、B「友情、信頼」とD「よりよく生きる喜び」は6社が含まれていた。

また、この3つの内容項目が上位3位以内に全て配当されたのは、東京書籍、学校図書、光村図書、日本教科書であった。ただし、この4社については、この3つの内容項目以外にも同じ教材数を配当した内容項目が複数みられた。上位3つの内容項目のうち、2つ配当されていたのは日本文教出版、学研教育みらい、廣済堂あかつき、1つ配当されていたのは教育出版であった。特に、1つしか共通する内容項目が確認できなかった教育出版は、C「郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度」に多くの教材を配当しており、多くの教材を配当した内容項目に他社との違いが確認できた。

これらのことから、中学校の教科書にみられた教材配当の特徴に関して、以下の2点が示された。

1点目は、教材の配当方法に出版社による違いがみられたことである。特定の内容項目に多くの教材を配当する方法と、どの内容項目にもほぼ同数の教材を配当する方法が確認できた。前者に該当する出版社は、教育出版、日本文教出版、学研教育みらい、廣済堂あかつき、日本教科書であった。これらの出版社の教科書は、内容項目への教材配当に軽重をつけていたことが確認できた。

一方、後者に該当する出版社は、学校図書、東京書籍、光村図書であった。これらの出版社の教科書は、どの内容項目にもほぼ同数の教材が配当されていた。

2点目は、多くの教材を配当した内容項目に共通性が確認できたことである。全体の上位3項目が、多くの出版社の上位3項目と合致していたことに加え、教科書の上位3項目に1つも合致しない出版社はなかったことから、教材の配当に一定の共通性があると考えられる。

中学校全体の上位3項目は、B「友情、信頼」、D「生命の尊さ」、D「よりよく生きる喜び」であった。これらは、道徳教育の指導の重点化を図ることが求められた内容と密接な関係が確認できた。

重点化を図る指導内容に関して、『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編』は、次のように示した。

自立心や自律性を高め、規律ある生活をする事、生命を尊重する心や自らの弱さを克服して気高く生きようとする心を育てること、法やきまりの意義に関する理解を深めること、自らの将来の生き方を考え主体的に社会の形成に参画する意欲と態度を養うこと、伝統と文化を尊重し、それらを育ててきた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重すること、国際社会に生きる日本人としての自覚を身に付けること（文部科学省、2018c）

この内容と比較してみると、D「生命の尊さ」は「生命を尊重する心」、D「よりよく生きる喜び」は「自らの弱さを克服して気高く生きようとする心」と合致している。一方、B「友情、信頼」に関わる内容はこの中にはみられないものの、いじめの防止という観点からも「学校や学級内の人間関係や環境を整えること」が求められており（文部科学省、2018c）、「友情、信頼」は重点化が求められた内容項目であったと考えられる。そのため、これら3つの内容項目は、どこの学校でも重視する必要がある、学校が多くの教材を配当すると考えられる。

一方で、他社とは異なる内容に多くの教材を配当し、差異化を図った出版社も認められた。特に、教育出版は、D「生命の尊さ」以外に、B「思いやり、感謝」、C「社会参画、公共の精神」、C「郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度」に多くの教材を配当しており、3つのうち2つは違う内容項目であった。特にC「郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度」は他の出版社はあまり多くの教材を配当しておらず、特徴的な配当方法であった。

4. 全体的考察

本研究では、平成31年度に中学校、令和2年度に小学校で発行された道徳の教科書における出版社別教材配当の特徴について検討し、学校が道徳教育において重点的な指導を行う際に考えられる課題を明らかにすることを目的とした。

本研究の結果から、教科書における出版社別教材配当の特徴を、以下の2点に整理できた。

1点目は、配当方法に関する特徴である。配当方法は2つに整理することができた。1つ目は、特定の内容項目と対応した教材を多く配当する方法である。例えば、小学校では、東京書籍、教育出版、日本文教出版、光文書院、学研教育みらい、廣済堂あかつき、中学校では、教育出版、日本文教出版、学研教育みらい、廣済堂あかつき、日本教科書にその傾向がみられた。教育出版、日本文教出版、学研教育みらい、廣済堂あかつきの4社は小学校、中学校ともこの傾向がみられた。

2つ目は、どの内容項目にもほぼ同数の教材を配当する方法である。例えば、小学校では学校図書、光村図書、中学校では東京書籍、学校図書、光村図書にその傾向がみられた。特に、学校図書、光村図書は小学校、中学校ともこの方針で教材の配当をしていた。

2点目は、各出版社が多くの教材を配当した内容項目にみられた特徴である。多くの教材が配当された内容項目は、2つに整理できた。

1つ目は、学習指導要領に示された指導の重点と合致した内容項目である。多くの教材が配当された内容項目として、全体の上位3項目に挙げられていたのは、小学校では、A「善悪の判断、自律、自由と責任」、B「親切、思いやり」、D「生命の尊さ」、中学校では、B「友情、信頼」、D「生命の尊さ」、D「よりよく生きる喜び」であった。これら3つの内容項目は、重点化を図る内容として示された等、学習指導要領において重視された内容項目であった。また、全体の上位3項目が、多くの出版社の上位3項目と合致していたことに加え、これらの内容項目を上位3つに1つも含ま

ない出版社は確認できなかった。そのため、各出版社は学習指導要領において重視された内容項目に多くの教材を配当したという点で、共通性がみられた。

2つ目は、出版社が独自に多くの教材を配当した内容項目である。例えば、教育出版は、小学校、中学校とも郷土の伝統や文化に関する内容に多くの教材を配当していた。これは、他の出版社がそれほど多くの教材を配当していない内容項目であり、特徴的な配当方法であった。

これらの教材配当の特徴からは、学校が道徳教育において重点的な指導を行う際に、それぞれの配当方法に応じたよさと課題として、以下の2点が考えられる。

1点目は、特定の内容項目に対応した教材を多く配当する方法は、学校の重点等とその内容項目が合致した場合、活用しやすいと考えられることである。特に、学習指導要領に示された指導の重点を中心に多くの教材を配当する方法は、多くの学校にとって活用しやすい方法だと考えられる。また、独自の内容項目に多くの教材を配当する方法もみられた。この配当方法は、すべての学校の重点に合致するとはいけないものの、学校における指導内容の重点に合致した場合に活用しやすいと考えられる。

一方で、これらの配当方法の課題として、多くの教材を配当した内容項目が、学校が設定した道徳教育の重点と合致しない場合、学校の道徳教育の重点と多くの教材が配当された内容項目の間のズレが大きくなることを挙げることができる。

2点目は、どの内容項目にもほぼ同数の教材を配当する方法は、学校の重点がどの内容項目であっても、重点となる内容項目に多くの教材を配当した年間指導計画を作成する場合、重点に関わる教材を開発し、付け加えることで対応しやすいと考えられることである。一方で、この配当方法は、どの内容項目にもほぼ同数の教材を配当していることから、学校が重点に対応する教材を別に開発する必要がある。

以上のことから、学校が道徳教育において重点

的な指導を行う際の課題として、重点に合致しやすい教科書と合致しにくい教科書があると考えられる。そのため、道徳教育の重点によっては教科書に掲載された教材だけでは対応できないことも示唆された。

5. まとめと今後の展望

本研究の結果、教材配当の特徴から、学校の道徳教育の重点によっては、重点に合致しやすい教科書と合致しにくい教科書があることが課題として示唆された。

それでは、学校は道徳教育において重点的な指導を行う際の課題にどのように取り組んでいくとよいのであろうか。

まず、教科書には原則として使用義務があること、現場の教員の間に教材の変更に難しさが伴うとの意識や教材の開発・活用への意識が低い実態がみられたこと、教科書導入前には『私たちの道徳』や副読本といった教材が多く用いられたこと等が示されていた。これらのことは、教科書の導入により、小学校6年間、中学校3年間の合計9年間にわたり、道徳の授業では、教科書に掲載された教材が多く用いられる可能性が高いことを示唆している。

また、教科書採択の権限は、「公立学校で使用される教科書については、その学校を設置する市町村や都道府県の教育委員会にあ」とされており（文部科学省，2019）、公立の小中学校においては、学校単位での教科書採択とはされていない。

そこで、教材の開発・活用に関しては、「教科書のみを使用するのではなく、各地域に根ざした郷土資料など、多様な教材を併せて活用することが重要」（中央教育審議会，2014）となってくる。各地域で作成している教材を活用したり、場合によっては、自作資料などを開発することで、学校が指導の重点に即した教材を配当し、指導の重点を生かした年間指導計画を作成することで、道徳教育の充実につながると考えられる。

今次の改正に求められたものは、「第一に道徳

授業を確実にを行う量的確保であり、第二に道徳授業の質的改善」であった（赤堀，2018）。このうち「量的確保」については教科書の導入によって、一定の成果が得られたとの報告もある。一方で、「質的改善」についてはどうであろうか。「質的改善」については「考え、議論する道徳」に向けた指導方法の改善という意味合いで使われていることが多いように感じられるが、「指導と学習の媒介としての教材」が道徳の指導上、重要なのは改めていうまでもないことである。

そのように考えると、学校の道徳教育の重点に多くの教材を配当し、学校の児童・生徒の実態に応じた教材を用いることは、質的改善を図る上でも欠かすことができない要素といえるだろう。

最後に、今後の課題を示しておく。「考え、議論する道徳」が目指されている中、指導方法の改善が今まで以上に注目を集めている。指導方法の改善に向けては、指導と学習の媒介としての教材に着目していくことも重要である。最もあってはいけないことは、教科書が導入されたことで、学校の重点や指導計画自体が、教科書に合わせるようになっていくことである。それでは、量的確保は図られたのかもしれないが、道徳授業の質的改善につながったとは到底いえない。

今後は、教科書に掲載された教材のより詳細な検討を行っていく。それによって、教科書の導入が、量的確保のみならず、質的改善につながったのか、道徳に教科書を導入したことによる影響について明らかにしていきたい。

引用文献

- 赤堀博行 2018 道徳授業における教材活用に関わる一考察、『道徳と教育』，336，107-117.
- 中央教育審議会 2014 道徳に係る教育課程の改善等について
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/_icsFiles/afieldfile/2014/10/21/1352890_1.pdf（最終閲覧日2021年3月9日）
- 越中康治・日久田純一 2016 道徳の教科化に対する教師・保育者及び学生の認識(2)：テキストマイニングを

- 用いた分析, 『宮城教育大学紀要』, 51, 167-176.
- 北田佳子 2017 検定教科書導入により道徳の授業づくりはどのように変わるのか: 教師の専門性と自律性に着目して, 『埼玉大学紀要教育学部』, 66(2), 139-161.
- 文部科学省 2014 『私たちの道徳』活用状況等調査結果
- 文部科学省 2018a 『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 特別の教科道徳編』廣濟堂あかつき.
- 文部科学省 2018b 『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 総則編』東洋館出版.
- 文部科学省 2018c 『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 総則編』東山書房.
- 文部科学省 2018d 『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 特別の教科道徳編』教育出版.
- 文部科学省 2019 教科書制度の概要
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/kyoukasho/gaiyou/04060901/1235091.htm (最終閲覧日: 2021年3月9日)
- 田沼茂紀 2014 実効性と系統的発展性が伴う教科教育学の視点からの道徳授業改革提案, 『道徳教育方法研究』, 20, 74-76.
- 山崎雄介 2016 「道徳科」をめぐる動向とそれへの対峙, 『群馬大学教育実践研究』, 33, 189-197.

【参考文献】

- 学研教育みらい 2019 『中学生の道徳 明日への扉1～3年』
- 学研教育みらい 2020 『新・みんなの道徳1～6』
- 学校図書 2019 『輝け未来 中学校道徳1～3年』
- 学校図書 2020 『かがやけみらい 小学校道徳1～6年』
- 光文書院 2020 『小学道徳 ゆたかな心1～6年』
- 廣濟堂あかつき 2019 『中学生の道徳1～3』
- 廣濟堂あかつき 2020 『みんなで考え, 話し合う 小学生の道徳1～6』
- 教育出版 2019 『中学道徳1～3 とびだそう未来へ』
- 教育出版 2020 『小学校道徳1～6 はばたこう明日へ』
- 光村図書 2019 『中学道徳1～3 きみがいちばんひかるとき』
- 光村図書 2020 『道徳1～6 きみがいちばんひかるとき』
- 日本文教出版 2019 『中学道徳 あすを生きる1～3』
- 日本文教出版 2020 『小学道徳 生きる力1～6』
- 日本教科書 2019 『道徳中学校1～3』
- 東京書籍 2019 『新しい道徳1～3』
- 東京書籍 2020 『新訂 新しい道徳1～6』

(釧路校准教授)

